

(1里=約4km)

0里 約5里 約3里 約2里 約10里 約3里 約13里 約5.5里 約18.5里 約5里 約23.5里 約2.5里 約26里 約5里 約31里

豊後街道 ~語り継がれた物語に導かれて~

<百間石垣後ろ飛び> 「天一もさいさい」と 大胆な挑戦

熊本城北側の石垣は高さ約5間、長さ約101間(約198m)あり、百間石垣と呼ばれます。追手に迫られた若者が「えーもさいさい(どうにでもなれ)」と、この石垣から後ろ向きに飛び降りた故事にちなみ、熊本では思い切ったことをするとき、「百間石垣後ろ飛び」と言われます。



熊本の百間石垣

<健磐龍命と二重峠> 外輪山を蹴破った農耕神・ 健磐龍命

神武天皇の孫と言われる健磐龍命は阿蘇谷を訪れ、カルデラに広がる湖を見て、水を抜けば肥沃な田畑になると考え、外輪山を力まかせに蹴り上げました。しかし、山が二重になってしまったため破れません。以後、そこは二重峠と呼ばれます。さらに別の場所を蹴破って水を抜き、広大な田畑を生み出した命は、農耕の神として尊崇を集めました。



<阿蘇爆発と参勤交代> 230年続いた参勤交代と 阿蘇爆発

参勤交代は寛永12年(1635)から慶応元年(1865)まで、230年間も続けられました。参勤交代に使われた豊後街道は、外輪山を越えて阿蘇谷を通ります。気象庁の記録によれば、その230年間に阿蘇山は26回も爆発しているのです。間近で爆発を目撃した殿様は、大いに驚いたことでしょう。

<的の鬼八と霜神社(阿蘇市役大原)> 鬼八の霊を鎮めるための火焚き神事

弓の達人であった健磐龍命は、往生岳からの的石に向け、矢を射る鍛錬を重ねていました。矢を拾うのは快足の家来・鬼八の役目でした。ある日のこと、99本までは命に捧げましたが、疲れた鬼八は100本目の矢を足蹴にして返し、命の怒りを受けてしまいます。格闘の末、鬼八は首をはねられます。その怨霊が阿蘇谷に霜を降らせ、農作物を枯らしてしまうため、霜神社に霊を祀り、ご神体を温める火焚き神事が行われるようになりました。

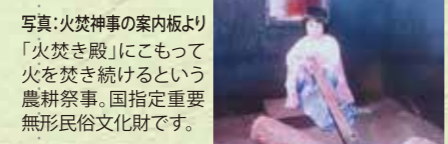


写真:火焚き神事の案内板より「火焚き殿」にこもって火を焚き続けるという農耕祭事。国指定重要無形民俗文化財です。

<子安観音像と虎屋> 虎屋夫人の頼みを受け、 木喰上人が彫った子安観音像

豊後街道の坂梨宿跡にある観音堂には、等身大の子安観音像が祀られています。これは寛政年間(1789-1801)に宿場を訪れた木喰上人が、子宝に恵まれなかった豪商・虎屋の夫人の頼みを受けて彫ったものとされ、今も人々に信仰されています。



木喰上人作の子安観音像

<根子岳と勝海舟> 根子岳を眺め、まさに奇峯と感嘆した勝海舟

文久3年(1863)、下関外国船砲撃事件を起こした長州藩は、諸外国から反撃を受けそうになります。その調停のため、勝海舟は長崎に派遣されますが、その途中、豊後街道の山上より阿蘇の根子岳を眺め、「妙義山に比べ、さらに奇峯なり」と旅日記に記しています。



阿蘇の根子岳

久住宿

<からかけくぬぎ 鞍掛櫓> 母乳に恵まれるという 樹齢約650年の大櫓

阿蘇郡産山村、豊後街道の弁天坂の石畳の脇に、樹齢650年前後と推定される大櫓があります。この幹には乳房に似た膨らみがあり、なでると母乳に恵まると伝えられています。



鞍掛櫓

<勝海舟と坂本龍馬> 鶴崎に宿泊した幕末の偉人

大分市の鶴崎にある石像。幕末の激動期、佐賀関に上陸した二人は、鶴崎御茶屋に宿泊します。この地で思索を重ねたのち豊後街道を歩き、長崎へと向かいました。



勝海舟・坂本龍馬の石像



野津原宿

<のつはる物語「尾を切られた竜」> 溜池の水を飲む、丸山神社の木彫りの竜

豊後街道の今市宿跡にある丸山神社の楼門「ひぐらし門」に置かれた木彫りの竜にまつわる言い伝えです。高い土地にある今市では、溜池を掘って稲を作っていましたが、ある年、日照りでもないのに池の水が急に減ります。不思議に思った村人が夜中に見張ると、竜が水を飲んでいると分かりました。そこで、竜を彫った大工を呼び、尾を少し切り取ると水は減らなくなり、無事に豊作となりました。

【土木遺産】

今市石畳 宿場町の風情が漂う石畳

豊後街道の今市宿跡には現在も全長660mの石畳が残ります。道幅8.5mのうち中央部分2.1mに平石がびっしりと敷き詰められ、旅人が行き交う宿場町の風情を伝えています。



▲土木遺産in九州「今市石畳」

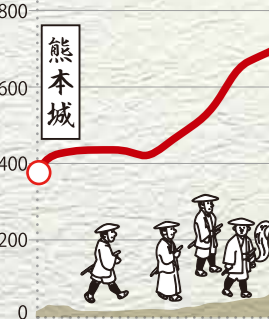
野津原三渠 江戸中期に掘られ、水田を潤した石張水路

急な山間地が広がる野津原地域は、古くから水不足に苦しんでいました。肥後藩谷村の惣庄屋・工藤三助は水路を引く計画を立案し、元禄12年(1699)から享保9年(1724)にかけて石張水路・野津原三渠を掘り、広大な新田を開発しました。



▲土木遺産in九州「野津原三渠」

●豊後街道標高グラフ



【参考文献】「豊後街道を行く」(松尾卓治著・弦書房・2006年10月発行)、『九州横断の道 阿蘇くまもと路』(ルートガイド編集委員会著・九州風景街道推進会議・2017年12月発行) 【写真提供】熊本県観光連盟、阿蘇市経済部観光課 【参考】位置参照情報 国土交通省-街道データ©GPS Cycling、国土交通省 国土地理院 【制作・発行】一般社団法人九州地域づくり協会 令和4年(2022)10月発行 ご注意:本書の内容の一部または全部を無断で複製・転載・改題することはできません。【非売品】

豊後街道を往く

肥後と豊後の両国を結んだ全長約124キロメートルの主要街道





9 武蔵塚公園 細川家の参勤交代を見守るため、宮本武蔵が甲冑(かっちゅう)姿のまま葬られたとされる墓所です。

3 三里木 以前には数本の榎が残っていたようです。

10 日本の道百選 熊本市から菊池郡菊陽町までの大津街道は、日本の道百選に選ばれています。

11 四里木 今は里数木もなく石碑だけが立っています。

12 上井手用水 宿場町・大津に築かれた用水路です。着工から19年後、寛永14年(1637)に堰・制水門、水路が開削されました。

13 光尊寺 水量豊かな上井手用水に架けられた石橋を渡ると、菩提樹が茂る静かな境内が広がります。

14 御高札場跡 街道と上井手用水が交わる地点、幕府や藩の法令、掟書など書いた高札を立て、人々に知らせた場所です。

15 大津手永会所跡 手永とは細川藩独自の役所名であり、この会所では行政・教育・裁判などを担当しました。

参勤交代の大名行列も行き来した、由緒ある歴史の道

人々のさまざまな営みが、時の流れを超えて受け継がれています。



4 立田口の赤鳥居 立田口大神宮の朱色の鳥居は、街道の熊本北部方面の目印でした。

5 一夜塘(いちやども)之趾 白川の氾濫を防ぐため、寛政8年(1796)にわずか半年で築かれたという堤防です。

3 観音坂 熊本城天守閣の場所にあった観音堂が、清正の要請で当地に移され、この名で呼ばれています。

2 札の辻 肥後藩の政令を掲示する広場で、ここが諸街道の里数の起点・里程元標となります。

1 熊本城 慶長12年(1607)、築城の名手・加藤清正が完成させた名城です。

6 一里木 肥後国の諸街道では1里ごとに、道の両側に里数木として榎(えのき)を植え、距離の目安としました。

7 二里木 札の辻から二里のところに茂る榎が、里数木として現存する唯一のものでした。

16 五里木 藩主の参勤行列を人々が出迎える「殿様拜み」は、この地より東側と定められていたそうです。

17 六里木 この地が全長124kmの約5分の1にあたります。

18 清正公道(せいしよごどう)石碑 豊後街道のうち、大津宿から二重峠までの道は清正公道と呼ばれ、その脇に立つ石碑は清正公の兜(かぶと)の形を模しています。

19 七里木 二重峠に登る途中、七里木跡の石碑があります。かつてはこの近くに峠の茶屋があり、ここで参勤交代の工夫を入れかえたそうです。

20 西南之役戦跡石碑 阿蘇谷周辺でも政府軍と薩摩軍の激戦が行われ、数多くの戦死者が出ています。

24 九里木 西外輪山の麓を北に進むと、道のすぐ脇に「史蹟九里木之址」の石碑があります。

25 十里木 内牧宿の西の玄関口、旅人を歓迎するかのよう「史蹟十里木之址」の木標が立っています。

26 内牧城本丸跡・内牧御茶屋跡 内牧城が廃城となり、その本丸跡に細川藩によって内牧御茶屋が置かれました。

27 十一里木 振り返れば大観峰を望む田園の道脇に「史蹟十一里木之址」があります。

28 十二里木 阿蘇五岳を見ながら街道を東へ進むと、道脇に「十二里木」の石柱が見られます。

29 坂梨手永会所跡 この手永会所では周辺11か村を管轄していました。会所の廃止後、その建物は寺子屋や小学校として使われました。

30 天神橋(めがね橋) 種山石工の棟梁・卯助の指揮で、あしかけ3年かけて完成させた石橋です。

31 坂梨宿場町 肥後から豊後へ向かう街道に置かれた三番目の宿場町です。

32 十三里木 大正初期まで榎の大木があったそうです。

33 十四里塚 国道57号沿いに立つ「十四里塚跡」の案内板です。

34 カワの墓 滝室坂を上った参勤交代の殿様に、茶を献じたという美女「カワ」の墓が残っています。

35 十四里塚 国道57号沿いに立つ「十四里塚跡」の案内板です。

36 十五里塚 笹倉を過ぎて国道57号を離れ、杉林へ進むと「十五里塚」の案内板があります。

37 ヘキ谷道標 ヘキとは「壁」のことです。ここは「魔のヘキ谷」と呼ばれるほどの迷い道だったそうです。

38 水恩碑 明治の用水路の開削、昭和のコンクリート補強など、先人の苦勞に感謝する石碑です。

39 滝室坂の石畳 豊後街道一の難所と言われ、急坂が続く滝室坂。ここでも西南の役の激戦が行われたそうです。

39 井天坂の石畳 石畳の長さは約80m、幅は約3m。標高差約20mの坂道が続いています。

40 境の松の石畳 標高差約40mの石畳が約160m、右に左に鋭く曲がりながら伸びています。

41 境の松 かつて肥後と豊後の国境には松が植えられ、石畳を上ると峠の茶屋があったと言われている。

内牧宿

坂梨宿

二重峠

大津宿

熊本城